メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 136 号
〔2023 年２月発行〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAM より、2023 年 2 月号の会報をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞

現地（メソト）から

国内から

JAM 現地派遣員帰国報告会のお知らせ

編集後記

次号の予定

現地（メソト）から

【メソト：東山 諒子】

＜ともに学ぶ健康教育＞

昨年より進めてきた新型コロナウイルス感染症に対するプロジェクトも、2023 年 1 月 26 日、ついに完了の日を迎えました。

12 月までは、主に医療機器や衛生用品の物資提供を行ってきましたが、年明けからは、様々な場所で新型コロナウイルス感染症についての健康教育を実施してきました。例えば、メータオ・クリニックのスタッフを対象とした研修、移民学校の先生や生徒、保護者、移民労働者の方々を対象とした、一般知識の普及などです。

移民学校の研修では、蚊を媒体に感染するマラリアやデング熱に関する啓発も併せて行いました。こうした蚊媒介感染症は、毎年雨季に現地で流行する基本的な感染症ですが、移民学校の先生方の中には、それらの疾患の医療的ケアはもとより、一般知識でさえも定着していないこともありました。そこで、感染症に関する教育が必要という現地のニーズもあり、メータオ・クリニックの学校保健チームの協力を得て実施。加えて、日々の生活で大切なセルフケアとして、シラミや歯科衛生に関する情報提供も行いました。

（写真）マスクは顔にしっかり装着させることで予防効果を発揮する、という説明を聞き、さっそく実践する子どもたち。

メソトにある移民学校は、2022 年 12 月時点で 65 校。この中には、クーデター後に生徒数が増えたことで必要に迫られて開校したものの、正式には移民学校と登録されていなかったり、キリスト教会から支援を得て何とか運営している学校があったりと、ここ数年、様々な事情を抱えながら運営されている学校もあります。今回 JAM は、メータオ・クリニックがサ

ポートしている CDC スクール、および健康教育が行き届きにくい小規模な学校に焦点を当て、計８校にて健康教育を実施しました。

（写真）ビルマでは「レッセー チンダ ビャー（手洗いポエム）」があります。爪先から手首までしっかり手洗いができるよう、ポエムに合わせて皆で練習しました。

（写真）子どもたちだけではなく、先生や保護者の方々たちとも練習します。

（写真）今年も（株）SARAYA タイランド様より、消毒液とウイルスチェッカーローション（適切な手洗いができているかチェックするもの）を提供していただきました。
人と握手をしたり、物を触ったりしたあとは、ウイルスが手掌につくため、適切な手洗いが大切であることを学びました。

（写真）正しい歯の磨き方を練習する移民学校の生徒。

（写真）健康教育のあとは、マスクや抗原検査キットに加え、シラミ用シャンプー、歯ブラシ、歯磨き粉の衛生用品を提供しました。

（写真）移民労働者の支援団体 AWO（Arakan Workers Organization）で実施した、ビルマからの移民労働者の方々へ健康教育。150 人以上の方が参加してくれました。

この 1 年のプロジェクトを通して多くの場、人、活動との、かけがえのない出会いがありました。今後も JAM は現地に入り込み、現地の人とともに学び、ともに前進する関係性を築きながら活動を続けていきたいと思います。今回のプロジェクト運営にかかわってくださった現地および日本からの多くの支援者の方々に、深く感謝申し上げます。

JAPAN ASSOCIATION FOR MAE TAO CLINIC

＜クーデターから２年　～メソトの近況～＞

新型コロナウイルス感染症が蔓延した 2020 年以降、閉鎖されていたタイ・ビルマ国境第１友好橋。2023 年 1 月 12 日、３年ぶりに、ついに開通しました。当日、「今日友好橋が開通したね。朝から式典があったらしいよ」と現地スタッフが見せてくれた SNS の写真には、軍服を着たタイとビルマの関係者が手を取り合っている姿。そして警察、市民とみられる大勢が肩を並べ、橋を渡っている姿がありました。

ビルマで起きている現状とあまりにもそぐわない光景に頭がついていかず、とりあえずこの目で確かめねば、と次の日さっそく足を運んでみました。するとそこには確かにゲートが開いた橋があり、国境を行き交う人々の姿がありました。

開通から１か月後の２月、再び足を運んでみると、往来する人々の数はさらに増えていました。チケット売り場には長蛇の列ができ、ビルマから友人や家族が来るのを待っているのか、待合所にも人があふれていました。観光客用の乗り合いバスも常に待機しており、近くのマーケットも心なしか賑わっています。印象的だったのは、タイ側からビルマ側に渡る人々は決まって皆大荷物を抱えていますが、それとは対照的に、ビルマ側からタイ側に来る人々は、比較的身軽な格好をしていることでした。

（写真）タイ側の国境ゲート付近にある待合所の様子

（写真）第１友好橋を、タイ側からビルマ側へ渡る人々。皆大きな荷物を抱えていました。

（写真）国境沿いに設置されたワイヤーの間から、煙草やお酒を売るビルマの人々。ワイヤーの手前、タイ側にいる人々がブラブラと商品を見て歩く姿がありました。

2023 年 2 月 1 日、ビルマで軍事クーデターが起きてから、丸 2 年が経ちました。

先日参加したビルマに関するセミナーでは、登壇した研究者の方が「1961 年、1988 年、そして 2021 年と 3 回目のクーデターが起きた。また始まったということですね」と話されていました。確かに、ビルマの歴史の中でクーデターが何度も繰り返されてきたのは事実です。しかし毎回クーデターが起きるたびに、悲惨な状況に翻弄されながら、必死で抵抗してきた人がおり、また多くの人々の命が奪われてきたのです。実際、メソトに赴任してから、この軍事独裁は必ず終わる、必ず終わらせるのだ、と決意して活動を続ける人々に出会ってきました。今を生きる人々にとっては「〇回目のクーデター」ではなく、今ここにしかないクーデターであり、今取り戻さなければならない自由なのだと思います。いつか、本当の意味で自由に国境を越えられる日が来ることを切に願います。

＜最後に　～ご挨拶～＞

今年の冬、日本は平年に比べて気温が低く、全国的に積雪が多いと、日本から便りが届きました。一方、メソトは現在乾季で、日中は穏やかなぽかぽか陽気です。しかし 2 月に入り、時々雨が降る日も出てきました。季節の移り変わりを刻々と感じています。

この度、私は現地派遣員としての任期を終え、帰国することになりました。この 1 年間、タイ・ミャンマー国境という複雑な地で、様々な現実を知りました。目の前で起きている現状に真摯に向き合い、地道に命をつないでいる人々が確実にそこにいることを、日々感じてきました。JAM 派遣員としてこのような機会をいただいたこと、また現地で出会い、ともに時間を過ごしてくださった方々、日本から支えてくださった方々に、心から感謝しています。今後も JAM は人道支援という立場から、皆さまの支援を直接現地につなげていけるよう、活動を続けて参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

国内から

【東京：田畑　彩生】

こんにちは。日本は少しずつ寒さも和らぐ日が増えてまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？平素より、メータオ・クリニック支援の会を通じ、または国境の事業へ直接のご支援を頂き、メータオ・クリニックの活動を応援してくださって、誠にありがとうございます。

私は、2012 年より JAM の第 4 代現地派遣員として、メータオ・クリニックに派遣して頂いておりました。現在は、東京都内の日用品メーカーの経営統括本部にて、サステナビリティ事業や NGO との連携などの仕事をしております。以前病院で勤務をしていたころのように、夜勤や救急搬送患者さまの看護をする機会はありませんが、当時の経験を活かして、企業内の産業保健のお仕事を兼務し、社員とその家族の健康を推進する委員会を立ち上げて、予防や健康相談などにも従事しています。私が現在の企業で初めての産業保健師となったのも驚くべき事ですが、病院で働くこととは異なる驚きの連続でもあります。現在は、その東京室室長として様々なお役目を兼務しており、以前のように国境の派遣員や仲間たちとの時間を持つことも難しくなってきました。

さて今回は、私が所属している CSR サステナビリティ推進部 東京室でのお話をご紹介させて頂きたいと思います。

＜ベトナムのデング熱予防事業＞

私が勤めている会社では、蚊取り線香や蚊よけクリームなど、蚊が媒介する感染症を予防するための製品を多く取り扱っています。そうした製品をつくる工場は、日本だけではなく、東南アジアにも展開しています。その拠点工場の一つがあるのが、ベトナムです。ベトナムは、東南アジアでもデング熱の感染者数の報告が上位にくる国の一つであり、私の働く部門でも「ベトナムで働く工場周辺の人々のためにも、小さなことでも何か役立つことはできないだろうか」という話が持ち上がりました。そこから、デング熱の発生を根本から予防するための「ワールド・モスキート・プログラム」と 2020 年より連携を始め、今年で 3 年目を迎えました。コロナ禍での取り組みは非常に困難ではあるものの、一緒に東京で勤務をしているベトナムからきた仲間とともに、事業を継続することができました。

＜未病から関わる産業保健＞

メータオ・クリニックで活動していたときも、病院から地域に出て、地域保健や学校保健に携わる機会が多かったこともあり、疾病の予防について学ぶ機会が多くありました。さらに、タイのマヒドン大学にて公衆衛生の学びを深めたことをきっかけとして、病院から出て働くことをますます興味深く感じるようになりました。今もその思いは変わらず、大そうなことは出来ていませんが、企業での勤務も新鮮な気持ちで取り組んでいます。社員の疾病予防の大切さを伝える事にもやりがいを感じています。経済産業省が主催の「健康経営優良法人ホワイト 500」を獲得するための社内教育などを推進し、「社員とその家族の健康を推進する委員会」の立ち上げに関わりました。さらに昨年から、もうひとり産業保健師が雇用され、腫瘍学専門の看護師の仲間と共に勤務しています。また、東南アジアの支社や海外に派遣される社員やその家族への派遣前準備や説明、派遣前・中・後の健康状態に関した相談やカウンセリング体制などを充実させていく必要性も感じています。JAM での経験を活かし、こうした取り組みをさらに進めていきたいと考えています。

＜今後の目標＞
一般的に企業が「CSR（企業の社会的責任）」を意識し、社会貢献活動を始めたのは、20 年近く昔といわれています。私が学生の頃に学んだ、国際保健、母子保健の改善や教育格差、性別格差などの是正をうたっていた MDG s（ミレニアム・ディベロップメント・ゴールズ）には、慣れ親しんでおりましたが、2015 年よりこの社会貢献活動へ積極的に動き始めたのは、SDGs（サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ）がきっかけになったと感じています。SDGs という、新たな 17 の地球規模の課題設定により、モノづくりの企業や金融など幅広い関係者（ステークホルダー）を巻き込み、「誰一人として取り残さない」ことをキーメッセージとして採択された事は大きな一歩となったと感じます。この SDGs の提言と仕組みにより、企業が取り組む社会貢献の色調と温度感が変化してきたと思います。これからも、より多くの環境や人的資本関連の社会性関連情報や企業ガバナンスに関連した情報を適切に社内より収集し、社外のステークホルダーへ情報を開示していく取り組みを進めていくと同時に、病院の中では出来ない、社会課題の解決や健康問題への取り組み、企業を通じたデング熱などの感染症予防の啓発を、東南アジアへ展開する取り組みを継続します。私の人生のテーマである、蚊媒介感染症のデング熱の感染予防に関する NGO との連携を、企業の CSR・サステナビリティ戦略課題としてとらえて、取り組みを拡大していきたいと考えています。

＜私の主なお仕事＞
・産業保健師としてのお仕事
・注力している SDGs のテーマに関連した NGO などとの新規事業立案
・二酸化炭素排出量など環境関連情報の取りまとめと web などへの情報開示
・ESG（環境・社会・企業統治）に関する質問についての投資家などとの面談
・ESG 外部評価機関（FTSE、MSCI、東洋経済新報社など）への対応
・サステナビリティレポート、統合報告書の作成　など

JAM 現地派遣員帰国報告会のお知らせ

【日時】3/21（火）15:30～17:00
【場所】ハイブリッド開催
・実会場
ゴールデン バガン（GOLDEN BAGAN）ミャンマー料理店
住所：〒162-0067　東京都新宿区富久町 8-20 カーサ富久町 1F
最寄駅：四谷三丁目駅から徒歩 5 分、曙橋駅から徒歩 5 分
ホームページ：https://goldenbagan.jp/access/
・オンライン（ビデオ会議システム　zoom）
お申込みいただいた方にお知らせいたします
【内容（予定）】
・理事挨拶
・JAM 紹介
・東山派遣員帰国報告
・質疑応答

※報告会終了後、同会場にて懇親会を開催予定です。詳細・お申込み方法につきましては後日あらためてご案内いたします。

goldenbagan. jp
アクセス ｜ ミャンマー料理ゴールデンバガン
会社概要とアクセスについてはこちらよりどうぞ。

編集後記

昨年 10 月、メソトを訪れました。そこで、軍の弾圧が続くミャンマーから逃れてきた、20 代の青年と出会いました。彼はクーデター前まで、学校の先生として働きながら、歌手を目指していたそうです。カレン民族の伝統音楽と流行りのミャンマーポップスを織り交ぜたオリジナルスタイルで、カレン州代表としてコンテストにも出場しました。しかしクーデター後、彼は反軍政のストライキに参加し、民主主義の歌をつくり、軍に追われました。今は国境近くの村に身を隠し、青空教室で国内避難民の子どもたちを教えながら、細々と暮らしています。「居場所は、両親にも教えていない」という彼に、寂しくないか、と尋ねると、彼は「そりゃ寂しいよ」と笑ったあと、こう話してくれました。「寂しいときは、大きな声で歌を歌うんだ。僕は正しいことをしたよな、って自分に言い聞かせているよ」。クーデターから２年経ち、話題に上ることもなくなったミャンマー。混乱が続く国の中で、一人ひとりがクーデター後の日々を懸命に生きていることを、忘れたくないと思った出会いでした。

次号の予定

次号は、４月下旬ごろ配信の予定です。
最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て E メール	support@japanmaetao.org
JAM ウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇